平成２２年１月１０日
サンフランシスコ産業情報センター
駐在員　杉本安信

全米外国語教師協会（ACTFL）年次総会展示会において愛知県をＰＲ

世界の様々な言語が話され、ビジネスがグローバルに行われている米国ですが、学校での外国語教育、あるいは地域社会での外国語習得の機会の提供も活発に行われています。

そうした中で、昨年11月20日から22日の3日間にわたって、カリフォルニア州サンディエゴにおいて全米外国語教師協会(ACTFL: American Council on the Teaching of Foreign Languages)の年次総会が開催され、外国語教育の在り方について討議を行う会議とともに、各国が自国のＰＲのための合同パビリオンやブースを設置する展示会が行われました。

愛知県サンフランシスコ産業情報センターにおいても、日本政府観光局(JNTO)ロサンゼルス事務所の支援協力を得て、同政府観光局のブース内にて愛知県のＰＲを行いましたので、その内容をご紹介します。

＜全米外国語教師協会年次総会とは＞

米国で外国語指導に従事する教師らで組織する全米外国語教師協会は、1967年に設立され、現在の大規模年次総会は2005年から開催されてきています。今年は、サンディエゴコンベンションセンターにおいて、会議、展示会をあわせて5,941人の外国語教育関係者が参加して行われ、会議での発表は680件、展示会出展者は255団体にのぼりました。

展示会場には、日本語をはじめ、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、フランス語、中国語、台湾語、韓国語など、世界の主要言語の教育機関関係者のほか、教材販売事業者、旅行会社などが参加、出展し、自国言語を指導する教育関係者に熱心に売り込みを行っていました。

展示会場内の様子

＜ダンス、舞踊も披露され、賑わいを見せた日本パビリオン＞

現在、世界における日本語学習者数の国別・地域別構成については、国際交流基金の「海外の日本語教育の現状 =日本語教育機関調査・2006 年=」によれば、米国内での日本語学習者は 2006 年時点で 117,969 人と、全世界の 4.0%を占めています。

[日本語学習者数の国別・地域別構成]

国・地域	韓国	中国	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	＜台湾＞	**米国**	その他	合計
学習者数	910,957 人	684,366 人	366,165 人	272,719 人	191,367 人	**117,969 人**	436,277 人	2,979,820 人
割合	30.6%	23.0%	12.3%	9.2%	6.4%	**4.0%**	14.6%	

出所：国際交流基金「海外の日本語教育の現状 =日本語教育機関調査・2006 年=」

そうした中で、今回、会場内で設けられた日本パビリオンにおいても、全米日本語教師会(NCJLT)やカリフォルニア州の日本語教育関係団体をはじめ、国際交流基金ロサンゼルス日本文化センター、日本政府観光局(JNTO)ロサンゼルス事務所、旅行会社、教材制作事業者、書籍販売事業者らにより多数のブースが設けられ、日本文化、日本語教材、日本各地の観光などのＰＲが行われました。とりわけ、全米日本語教師会(NCJLT)の企画により、日本語を学んでいる多数の学生らによる現代風の「ソーラン節」踊りや花笠踊りが披露される場面もあり、日本パビリオンに賑わいをもたらしました。

当イベントに参加した日本語教育関係者ら約200名は、各地域を代表して日本パビリオン内の各ブースを熱心に回り、資料収集や情報収集・交換を活発に行う様子が見られました。

日本語学習者の学生らによる日本文化紹介

＜日本の産業の代表的地域として学習者に紹介されることの多い愛知県＞

今回、愛知県サンフランシスコ産業情報センターにおいても、日本政府観光局(JNTO)ロサンゼルス事務所の呼びかけにより同事務所のブース内で初めて出展参加しましたが、ブースを訪れる日本語教育関係者らは、大学、高校だけでなく、中学校、小学校での日本語指導に当たる方々も多く、日本語の教育が全米各地で幅広く実施されている状況から、米国での外国語教育の多様性を感じさせるものとなりました。

学校で日本語学習が取り入れられるかどうかは、小学校から大学までそれぞれの学校の方針、選択によるようですが、日本語教師らによれば、日本語の学習者は減る傾向にはあるものの、日本の漫画、アニメに対する関心が高まっており、また、高校や大学では日本の産業やビジネスに関する紹介を行う比重も高まっているとのことで、愛知県についても日本の産業の代表的地域として紹介されることが多いとのことでした。

日本語教師の方々は、普段の授業の中で日本各地を様々な形で紹介しているようですが、あわせて日本の学生との交流を目的とした派遣や純粋な観光旅行といった訪日体験の企画なども行っているとのことであり、当センターにおいても、今回、愛知県の地域紹介にとどまらず、教育旅行の適地としてのＰＲも行いました。傾向としては、大学の場合は自由旅行が多く、高校などでは交流派遣の場合が多いようでした。

学校によっては、「低所得層の集まる地域の学校であり、日本語教育のプログラムはあっても、旅費の負担が大きく、日本体験をさせてあげられない。」という状況もあるとのことで、そうした学校の教師らは、できる限り写真や映像などの教材を駆使して、少しでも学習者に日本を身近に感じてもらえるよう工夫しているとのことでした。

学習者向けに観光旅行が企画される場合は、東京や京都などの主要観光地を優先する傾向

がうかがえましたが、大規模校で日本語教師が学生を毎年日本に連れていくようなケースでは、訪問先を変えるために東京、京都以外へも訪問するケースもみられ、愛知県を産業について学ぶ地域として訪問地に加えている学校もありました。

一方で、日本語教師らが授業の中で日本を紹介する際には、自身の出身地を紹介する割合が高くなるようで、日本の学校との交流を考える場合には、もともと姉妹都市関係があるケースが少ないことや、教師らが日本各地の行政や学校との直接的な接点が少ないこともあるためか、教師自身が出身地の地域で交流相手の学校を個人的なルートで探している状況がうかがえました。教師の方々からの日本政府観光局(JNTO)職員への質問の中でも、学校同士のマッチングをしてくれるかどうかという質問が多くあり、日本語教師らが交流相手の日本の学校を探している状況がいくつか見受けられました。日本政府観光局(JNTO)職員からは、地域を希望してもらえればマッチングの可能性を探ることはできるとの回答がなされていましたが、当センターとしても日本政府観光局(JNTO)などとのこうした点での連携強化も重要であると感じました。

日本政府観光局ブースでの愛知県紹介

今回、ブースを訪問する教師の方々の中には、愛知県出身者も多く、愛知県の資料を持ち帰られる方々も多くみられ、こうした方々が愛知県のＰＲに大きな役割を果たしておられることが強く印象付けられました。また、交流プログラムを実施している理工系大学の日本語教師の話では、理工系の場合、日本側での受入れ先がなかなか見つからない傾向があるとのことでしたが、理工系大学の多い愛知県は、そうした交流の受け皿になりうる可能性もあるのではないかと感じました。

今回の全米外国語教師協会年次総会での出展参加は、将来の知日派、親日派となりうる日本語学習者への指導･教育を行う日本語教師の方々への愛知県のＰＲの機会となりましたが、教育関係者の対日、対愛知のイメージに関する情報を得るとともに、愛知県を訪問地とする教育旅行のＰＲを行う機会ともなりました。愛知県サンフランシスコ産業情報センターとしても、引き続きこうした機会を通じて愛知県のＰＲを行っていきたいと思います。